新潟市早期景気観測調査

～平成29年1月分～

～目次～

1月調査の概要と概況　・・・P1

売上等項目別評価と業種別DI値　・・・P2

業界から寄せられた主なコメント　・・・P3

本調査方法と調査内容　・・・P4

新潟商工会議所

１．１月調査の概要と概況

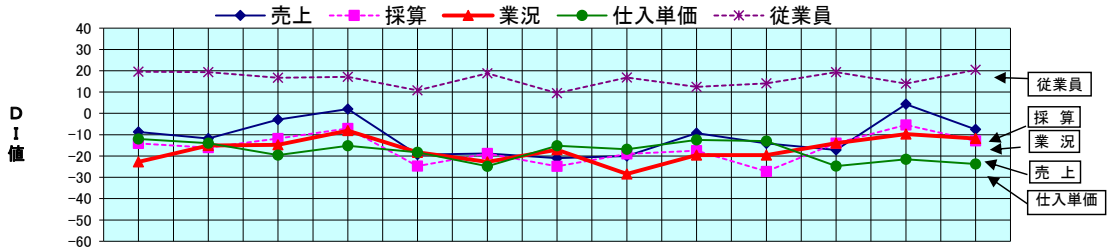
【1月の概要】

業況の回復は一進一退、先行きはやや改善の見通し

１２月に比べると、売上ＤＩはプラスからマイナスに転じ、採算ＤＩ、業況ＤＩ、仕入単価ＤＩは、マイナス幅が増加したが、従業員ＤＩはプラス幅が増加している。業種・企業によって業況感の違いも出ており、広告やＩＴ関連などは、業績は順調推移との声が聞かれる一方、卸売では販売不振、製造業でも受注減との声も聞かれ、業況の回復は一進一退で、全般的には弱めの動きとなっている。

先行きについては、１２月に比べ、売上ＤＩはマイナスからプラスに転じ、採算ＤＩ、仕入単価ＤＩ、業況ＤＩともそれぞれマイナス幅が減少するなど、やや改善を見込むが、依然として不透明な状況。

景気動向(前年同月比)全産業DI値（平成28年1月～平成29年1月）



	H28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H29年1月
売上	▲ 8.7	▲ 11.8	▲ 2.9	2.0	▲ 19.4	▲ 18.8	▲ 21.0	▲ 20.0	▲ 9.3	▲ 14.1	▲ 17.2	4.3	▲ 7.5
採算	▲ 14.1	▲ 16.1	▲ 11.8	▲ 7.1	▲ 24.7	▲ 18.8	▲ 24.8	▲ 19.0	▲ 17.5	▲ 27.2	▲ 14.0	▲ 5.4	▲ 12.9
業況	▲ 22.8	▲ 15.1	▲ 14.7	▲ 8.1	▲ 18.3	▲ 22.8	▲ 17.1	▲ 28.4	▲ 19.6	▲ 19.6	▲ 14.0	▲ 9.7	▲ 11.8
仕入単価	▲ 12.0	▲ 14.0	▲ 19.6	▲ 15.2	▲ 18.3	▲ 24.8	▲ 15.2	▲ 16.8	▲ 12.4	▲ 13.0	▲ 24.7	▲ 21.5	▲ 23.7
従業員	19.6	19.4	16.7	17.2	10.8	18.8	9.5	16.8	12.4	14.1	19.4	14.0	20.4

DI(景況判断指数)＝（良い割合）－（悪い割合）

１．調査概況報告

【全産業平均DI】

全産業の前年同月比では、１２月に比べ従業員ＤＩは、プラス幅が６．４ポイント増加したものの、売上ＤＩは、プラス４．３ポイントからマイナス７．５ポイントに転じ、採算ＤＩは７．５ポイント、業況ＤＩは２．１ポイント、仕入単価ＤＩは２．２ポイントとそれぞれマイナス幅が増加した。

全産業平均ＤＩ - 向こう３か月間の先行き見通し

	売上(受注･出荷)	採算	仕入単価	従業員	業況
12月	▲ 18.3	▲ 17.2	▲ 25.8	18.3	▲ 15.1
1月	1.1	▲ 5.4	▲ 19.4	18.3	▲ 8.6

先行きは、売上ＤＩがマイナス１８．３ポイントからプラス１．１ポイントに転じ、採算ＤＩは１１．８ポイント、仕入単価ＤＩは６．４ポイント、業況ＤＩは６．５ポイントとそれぞれマイナス幅が減少した。従業員ＤＩはプラス１８．３ポイントで変動はなかった。

【業種別DI】

建設業は前年同月比で１２月に比べ、仕入単価ＤＩが３．２ポイントマイナス幅が増加したものの、業況ＤＩはマイナスからプラス４．８ポイントに転じ、売上ＤＩはマイナス２７．８ポイントから０となり、従業員ＤＩは０から９．５ポイントプラス幅が増加した。採算ＤＩは１３．５ポイントマイナス幅が減少した。先行きは、従業員ＤＩが１８．３ポイントプラス幅が減少したものの、売上ＤＩはプラス３．２ポイント、採算ＤＩはプラス９．５ポイントとそれぞれマイナスからプラスに転じた。業況ＤＩもマイナス２２．２ポイントから０となり、仕入単価ＤＩは７．２ポイントマイナス幅が減少した。

製造業は前年同月比で１２月に比べ、仕入単価ＤＩが７．２ポイントマイナス幅が減少したものの、売上ＤＩは１２．４ポイント、採算ＤＩは１２．１ポイント、従業員ＤＩは７．２ポイント、業況ＤＩは０．７ポイントとそれぞれプラス幅が減少した。先行きは、従業員ＤＩが１．０ポイントプラス幅が減少したものの、売上ＤＩはマイナスからプラス５．６ポイントに転じ、採算ＤＩは１２．１ポイント、仕入単価ＤＩは４１．８ポイント、業況ＤＩは６．６ポイントとそれぞれマイナスポイントが減少した。

卸売業は前年同月比で１２月に比べ、従業員ＤＩがマイナスポイントからプラス９．１ポイントに転じたものの、売上ＤＩはプラスポイントからマイナス１３．６ポイントに転じ、採算ＤＩと仕入単価ＤＩは共に１３．４ポイント、業況ＤＩは１７．９ポイントとそれぞれマイナス幅が増加した。先行きは、仕入単価ＤＩが８．２ポイントマイナス幅が増加したものの、従業員ＤＩはマイナスポイントからプラス９．５ポイントに転じ、売上ＤＩは９．７ポイント、採算ＤＩは０．７ポイント、業況ＤＩは１５．０ポイントとそれぞれマイナス幅が減少した。

小売業は前年同月比で１２月に比べ、採算ＤＩがマイナス１２．５ポイントから、業況ＤＩがマイナス２５．０ポイントから共に０となり、仕入単価ＤＩは０からマイナス１２．５ポイントとなった。売上ＤＩは０ポイント、従業員ＤＩはプラス１２．５ポイントから共に変動がなかった。先行きは、仕入単価ＤＩがプラス１２．５ポイントからマイナス１２．５ポイントに転じたものの、売上ＤＩと従業員ＤＩは共に１２．５ポイントプラス幅が増加した。採算ＤＩはプラス１２．５ポイントで変動はなかった。

サービス業は前年同月比で１２月に比べ、従業員ＤＩが１４．１ポイントプラス幅が増加したものの、売上ＤＩが０からマイナス２５．０ポイントとなり、採算ＤＩは１４．７ポイント、仕入単価ＤＩは０．３ポイント、業況ＤＩは３０．６ポイントとそれぞれマイナス幅が増加した。先行きは、従業員ＤＩが１．２ポイントプラス幅が減少し、業況ＤＩが１７．３ポイントマイナス幅が増加したものの、売上ＤＩは２１．２ポイント、採算ＤＩは１７．８ポイント、仕入単価ＤＩは１．８ポイントとそれぞれマイナス幅が減少した。

２. 売上等項目別評価と業種別DI値

【項目別評価】

〈売上〉

売上ＤＩの前年同月比は、建設業はマイナス２７．８ポイントから０となった。小売業は０ポイントで変動がなかった。製造業は１２．４ポイントプラス幅が減少し、卸売業はプラスポイントからマイナス１３．６ポイントに転じ、サービス業は０ポイントからマイナス２５．０ポイントとなった。

先行きについては、建設業でプラス１４．３ポイント、製造業でプラス５．６ポイントとそれぞれマイナスからプラスに転じた。小売業は１２．５ポイントプラス幅が増加し、卸売業は９．７ポイント、サービス業は２１．２ポイントとそれぞれマイナス幅が減少した。

〈採算〉

採算ＤＩの前年同月比は、建設業で１３．５ポイントマイナス幅が減少し、採算ＤＩはマイナス１２．５ポイントから０となった。製造業は１２．１ポイントプラス幅が減少し、卸売業はプラスからマイナス１８．２ポイントに転じた。サービス業は１４．７ポイントマイナス幅が増加した。

先行きについては、建設業がマイナスからプラス９．５ポイントに転じ、製造業で１２．１ポイント、卸売業で０．７ポイント、サービス業で１７．８ポイントとそれぞれマイナスポイントが減少した。小売業は１２．５ポイントで変動はなかった。

〈仕入単価〉

仕入単価ＤＩの前年同月比は、製造業で７．２ポイントマイナス幅が減少したものの、建設業で３．２ポイント、卸売業で１３．４ポイント、サービス業で０．３ポイントとそれぞれマイナス幅が増加し、小売業は０からマイナス１２．５ポイントトとなった。

先行きについては、小売業がプラスからマイナス１２．５ポイントに転じ、卸売業が８．２ポイントマイナス幅が増加したものの、建設業が７．２ポイント、製造業が４１．８ポイント、サービス業が１．８ポイントとそれぞれマイナス幅が減少した。

〈従業員〉

従業員ＤＩの前年同月比は、製造業が７．２ポイントプラス幅が減少したものの、卸売業はマイナスからプラス９．１ポイントに転じ、サービス業で１４．１ポイントプラス幅が増加し、建設業は０からプラス９．５イントとなった。小売業はプラス１２．５ポイントで変動はなかった。

先行きについては、小売業で１２．５ポイントプラス幅が増加し、卸売業でマイナスからプラス９．１ポイントに転じたものの、建設業は１８．３ポイント、製造業は１．０ポイント、サービス業は１．２ポイントとそれぞれプラス幅が減少した。

〈業況〉

業況ＤＩの前年同月比は、建設業でマイナスからプラス４．８ポイントに転じ、小売業でマイナス２５．０ポイントから０となったものの、製造業で０．７ポイントプラス幅が減少し、卸売業で１７．９ポイント、サービス業で３０．６ポイントとそれぞれマイナス幅が増加した。

先行きについては、サービス業で１７．３ポイントマイナス幅が増加したものの、小売業は０からプラス２５．０ポイントとなり、建設業でマイナス２２．２ポイントから０となった。製造業は６．６ポイント、卸売業は１５．０ポイントとそれぞれマイナス幅が減少した。

【参 考】全産業平均DI-向こう3か月間の先行き見通し

	売上（受注・出荷）	採算	仕入単価	従業員	業況
12月	▲ 18.3	▲ 17.2	▲ 25.8	18.3	▲ 15.1
1月	1.1	▲ 5.4	▲ 19.4	18.3	▲ 8.6

２. 業種別DI値

①:前年同月比　②:向こう3か月間の先行き見通し

(1)建設業

	売上（受注・出荷）		採算		仕入単価		従業員		業況	
	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
12月	▲ 27.8	▲ 11.1	▲ 27.8	▲ 5.6	▲ 11.1	▲ 16.7	0.0	27.8	▲ 33.3	▲ 22.2
1月	0.0	14.3	▲ 14.3	9.5	▲ 14.3	▲ 9.5	9.5	9.5	4.8	0.0

(2)製造業

	売上（受注・出荷）		採算		仕入単価		従業員		業況	
	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
12月	23.5	▲ 11.8	17.7	▲ 17.7	▲ 29.4	▲ 52.9	29.4	17.7	11.8	▲ 17.7
1月	11.1	5.6	5.6	▲ 5.6	▲ 22.2	▲ 11.1	22.2	16.7	11.1	▲ 11.1

(3)卸売業

	売上（受注・出荷）		採算		仕入単価		従業員		業況	
	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
12月	23.8	▲ 14.3	4.8	▲ 14.3	▲ 4.8	▲ 19.1	▲ 4.8	▲ 9.5	▲ 4.8	▲ 28.6
1月	▲ 13.6	▲ 4.6	▲ 18.2	▲ 13.6	▲ 18.2	▲ 27.3	9.1	9.1	▲ 22.7	▲ 13.6

(4)小売業

	売上（受注・出荷）		採算		仕入単価		従業員		業況	
	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
12月	0.0	12.5	▲ 12.5	12.5	0.0	12.5	12.5	12.5	▲ 25.0	0.0
1月	0.0	25.0	0.0	12.5	▲ 12.5	▲ 12.5	12.5	25.0	0.0	25.0

(5)サービス業

	売上（受注・出荷）		採算		仕入単価		従業員		業況	
	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
12月	0.0	▲ 37.9	▲ 10.3	▲ 34.5	▲ 41.4	▲ 31.0	27.6	34.5	▲ 6.9	▲ 3.5
1月	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 41.7	▲ 29.2	41.7	33.3	▲ 37.5	▲ 20.8

３．業界から寄せられた主なコメント

平成29年1月

建設業	総合建設	公共事業工事での年度末発注工事の受注に期待している。市場状況は競争が激しく受注案件の落札は難しくなっている。
	設備工事	地域も業界もあまりよくないように思える。
製造業	食料品	県外の新規開拓により売上増加を見込む。
	鉄工	工作機械関連の仕事量が特に減少している。先行き不透明である。
卸売業	日用品	業界全体に年末年始は活気があったが、１月中旬以降は活気がなくなってきている。
	事務用機器	全般的に市況は低迷しており機械の入替がとても鈍い状況。このままの状況が続くようであれば今期予測は減収減益の決算になりそうである。
小売業	生花	売上は天候が悪く客足減、２月からに期待をしたい。入荷量は前年より減少傾向で、仕入れ単価面では昨年と比較するとやや高値で推移するようだ。
サービス業	広告	今年の業績は昨年と比べ上昇している。業界内でも特に悪い話は聞かない。
	ソフトウェア	半年や一年といった先のことは不透明だが、概ね順調に受注できている。
	ホテル	悪天候による交通機関の乱れ等で、外来のレストランご利用のお客様が減少した。

４．本調査方法と調査内容

業種別調査対象数

業　　種	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	合　計
調査対象数(件)	61	61	60	50	69	301
回答数(件)	21	18	22	8	24	93
回収率(%)	34.4	29.5	36.7	16.0	34.8	30.9

調査方法

新潟市内にある当所の会員企業・団体等の中から、建設・製造・卸・小売・サービスの５業種について、予め調査への協力をお願いした301ヶ所の調査対象に対し、毎月１５日前後に調査票をインターネットまたはファクシミリ送信し、２５日前後までに寄せられた回答を集計し、その結果をDI値で表します。

質問内容

売上・採算・仕入単価・従業員・業況について、今月の動向が前年同月と比較してどのように変化しているかということと、今後3ヶ月の見通しについて、今月と比較してどのように考えるかということを尋ねています。

ＤＩとは

DI(DIFFUSION INDEX)値：景況判断指数

売上・採算・業況などの各項目についての、調査対象の判断の状況を表す指数です。
ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を示す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示します。つまり、売上高など実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味します。

ＤＩの計算方法

DI＝（増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

売上	（増加）の回答％－（減少）の回答％
採算	（好転）の回答％－（悪化）の回答％
仕入単価	（下落）の回答％－（上昇）の回答％
従業員	（不足）の回答％－（過剰）の回答％
業況	（好転）の回答％－（悪化）の回答％